

くまもととデータ連携基盤

エリア・データ連携基盤(非パーソナル)



デジタルデータの活用で
くまもとのDXを加速！



©2010熊本県くまモン



データの活用で地域活力を創出！

少子高齢化や人口の減少がより一層進んでいくことが見込まれており、様々な分野・業界において人材が不足し、地域活動や企業活動の低下が懸念されています。

また、社会・地域課題が複雑化し、住民ニーズが多様化する中で、個々のニーズに応じたサービスの提供が求められています。

熊本県では、デジタルを活用した変革(DX:デジタル・トランスフォーメーション)を推進しており、特にデータの活用が重要となります。データを積極的に活用することにより、個々のニーズを踏まえた新たなサービスや商品の開発につなげ、住民のより良い暮らしづくりと地域活力の創出につなげていきます。

様々なデータの活用事例

※活用例として
検討中のもも含みます



交通

移動手段に困っている高齢の方や目的地への行き方に迷う観光客に対して、電車・バス・タクシー等を組み合わせ、現在地から最短・最適な移動手段を提供するMaaSの実現に貢献します。

活用データ

施設・観光スポット情報 / 交通機関の運行情報 / 道路の渋滞情報 / バス停情報 / 人流データ 等



ヘルスケア

自身の健康に関するデータ(日々の食事や運動、服薬情報など)を、健康サービスや医療機関と共有することで、健康状態の可視化や健康増進の実現に貢献します。

活用データ

バイタルデータ / 健康診断結果データ / 医療機関データ / 食事記録データ / 運動記録データ 等



観光

観光施設の混雑状況をリアルタイムに把握しながら、バスの運行やバス停の位置を確認することで、観光の計画に活用できます。

活用データ

バスなどの運行情報 / 観光施設情報 / 混雑データ(ライブカメラ等) / 人流データ 等



防犯・見守り

学校、塾、学童施設などの行き帰り時に子どもの位置を確認でき、また、地域の不審者情報等と連携させて、地域の防犯やパトロール強化等の施策に活用できます。

活用データ

ライブカメラ / 道路照明灯情報 / 子育て施設・教育機関 / 地域の不審者情報 等



防災

自宅から避難所への経路確認、災害発生時は河川水位のリアルタイム情報をもとに、災害状況に応じて最適な避難ルート・退避行動を案内することができます。

活用データ

避難場所情報 / ハザードマップ / 河川水位等の警報・センサー情報 等

様々なデータを繋ぎ合わせて
分野や組織を超えて新たな価値を創出。
安全・安心で魅力的なくまもとを共に創ります。

従来のICTを活用したまちづくりの課題

これまでのICT(情報通信技術)を活用した住民サービスは、それぞれにシステムが構築されており、データの取得・管理・運用も個々に行われていました。

そのため、様々なデータを活用して新たな情報・サービスを提供しようとしても、データ形式が異なるため、容易に他システム・他分野のデータを利用することができませんでした。

たとえば、防災サービスにおいて、道路通行状況のデータを活用したい場合、交通サービスで蓄積したデータを直接利用できないため、改めてデータを取得する必要がありました。

行政・民間などの分野を超えたデータ活用の重要性

分野や組織を超えて新たな価値の創出を効率よく推進していくためには、まずは各分野・システムごとに分散しているデータをお互いに、誰もが簡単に、活用できることが重要となります。

そこで必要となる仕組みが「データ連携基盤」です。

行政・民間などの分野を超えたデータを活用できるようになることで、地域や一人ひとりに合わせた新たなサービス展開や、既存サービスの高度化などを実現することができます。



データ連携基盤の全体イメージ

データ連携基盤とは

データ連携基盤とは、サービスやビジネス開発にデータを活用する際、県・市町村・民間事業者等が蓄積している様々なデータを随時・迅速に取得することができるシステムです。

データ連携基盤では、API(Application Programming Interface)接続によりデータの機械的な取得が可能となります。

行政や民間が保有する様々なデータを互いに活用することができ、広域で活用することも可能になります。

これにより、新たなサービスの創出や商品の開発など、データを活用した取り組みが促進されます。

くまもとデータ連携基盤の特徴

県・市町村および民間事業者のデータの流通

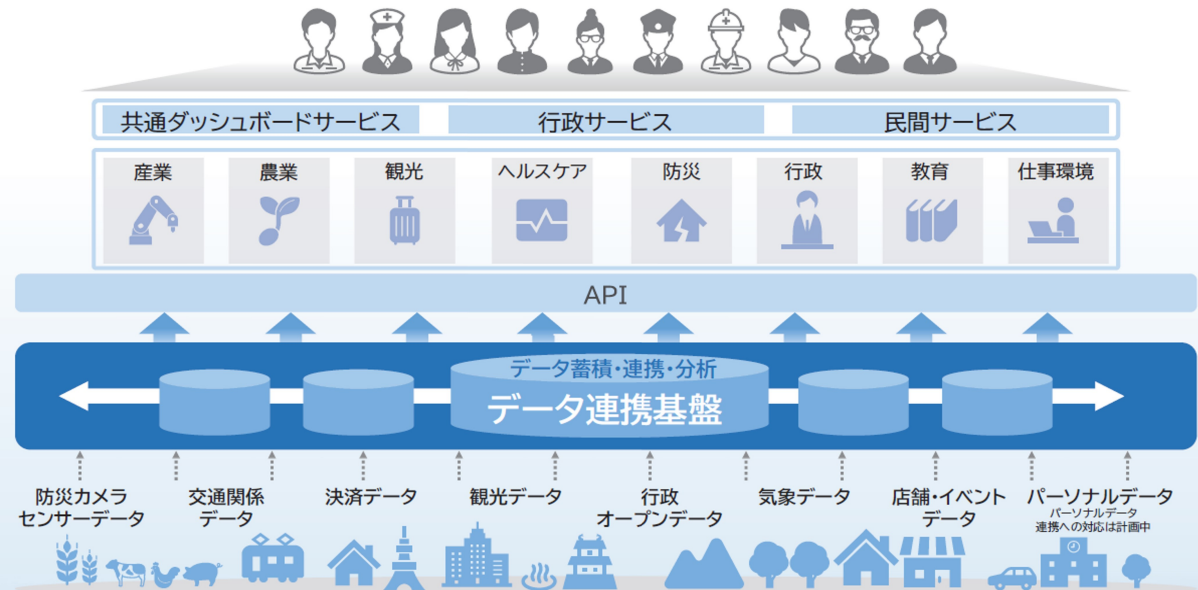
- 県全体のDX推進に向けて、県と県内市町村が共同で運用します
- 県や市町村といった行政機関、および民間事業者のデータを1つの基盤上で流通させることで、県域でのデータの取得・連携が容易にできます

データ可視化サービスの実装

- 防災、観光分野をはじめとするオープンデータを地図上に可視化することができる「共通ダッシュボードサービス」を実装しています

将来を見据えた拡張性

- データの追加やサービスの接続が容易にできる基盤構成となっています



利用可能なデータ例

避難場所情報、公共施設情報、観光施設情報、医療機関情報、子育て施設情報、公共交通機関情報など
利用可能なデータは「くまもとデータ連携基盤データカタログポータルサイト」からご覧いただけます。

URL <https://datacatalogportal.dlp-kumamoto.jp/odp/>



FIWAREによるシームレスなデータ流通の実現

■ 国が推奨するデータ仲介機能「FIWARE-Orion」に準拠

本県のデータ連携基盤は、国が推奨・提供するデータ仲介機能(ブローカー)である「FIWARE-Orion」をコアとしたデータ連携基盤であり、API連携方式によるデータの流通・利用ができます。

また、同様の「FIWARE」を活用した基盤間での連携も可能な仕組みとなっており、より多分野・広域でのデータ活用が実現できます。



総務省の「スマートシティセキュリティガイドライン(第2.0版)」に準拠したセキュリティ対策を実装

■ セキュリティガイドラインに対する適合状況

- ①外部からの攻撃、侵入などを防ぐセキュリティ対策
- ②セキュリティインシデント発生時の未然防止のためのセキュリティ対策
- ③インシデント発生時に備えたセキュリティ対策
- ④国内複数リージョンのクラウドサービスを利用することによるセキュリティ対策

■ セキュリティインシデント対応

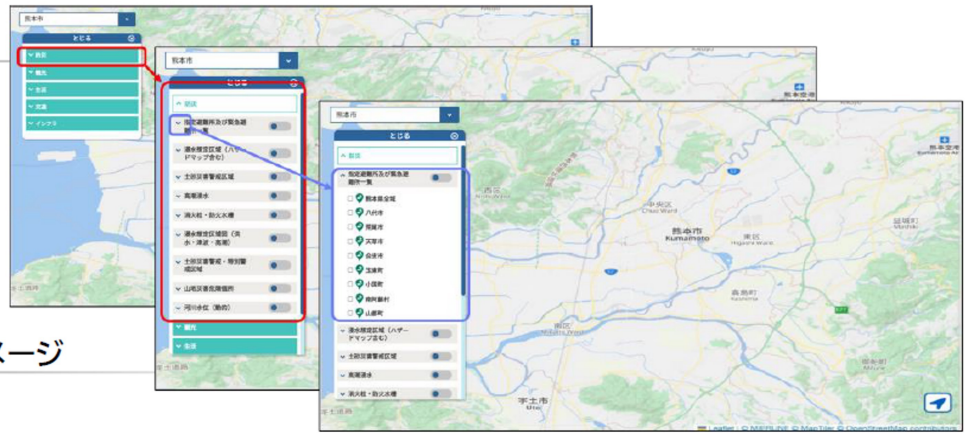
システムの監視は、24時間・365日実施し、情報漏えいやデータの改ざんなどのセキュリティインシデントの発生を迅速に検知できます。
また、セキュリティインシデント発生時には、異常箇所を遮断し、被害の拡大を防ぐと同時に、関係者間での情報共有を図り、早期の復旧を実施します。

共通ダッシュボードサービス

「共通ダッシュボードサービス」は、データ連携基盤に登録(接続)されたデータを地図上に可視化するためのサービスです。公共施設情報やバスの運行情報などの行政・民間事業者が保有する様々なデータをパソコンやスマートフォンから閲覧できます。

目的に合わせて表示の変更が可能

地図上でのデータの表示方法はマーカー、ポリゴン、ラインに対応しています。利用者が目的に応じて、各種データの表示・切り替えが可能です。



共通ダッシュボードサービスの活用イメージ

防災 災害時の避難に活用

平時(自宅)	避難時	避難場所への移動時	避難場所到着後
避難場所を確認し、非常時の避難行動計画作成に活用	GPSと連動し、現在地から最も近い避難場所を確認	シームレスにGoogle Mapと連動し、避難場所までの詳細な経路や時間を確認	河川水位などの災害関連情報をグラフ等で確認
			
地図情報閲覧	地図情報閲覧	Google MAP連携	情報閲覧

観光 観光時のスムーズな周遊に活用

旅行前	事前に混雑状況を把握	近隣の観光施設を検索	バスの運行情報を閲覧
観光施設を確認し、観光ルートを計画	ライブカメラの映像で、目的の観光地が混雑していることを確認	GPSと連動し、最寄りの観光施設と、利用できるバス停を検索	目的の観光地までのバス情報を閲覧し、公共交通機関を利用したスムーズな移動が実現

くまもとデータ連携基盤共通ダッシュボードサービスへのアクセスはこちらから

URL

<https://dashboard.dlp-kumamoto.jp/M100/full/page/dashboard>



問い合わせ先

熊本県企画振興部デジタル戦略局 デジタル戦略推進課

〒862-8570 熊本県熊本市中央区水前寺六丁目18番1号

TEL.:096-333-2469 E-mail:dejisuishin@pref.kumamoto.lg.jp

令和6年2月作成